# 東由利村報

No.161　1971・1・1

発行　秋田県東由利村役場　印刷　KK本間印刷所

毎月1日発行（1部8円）昭和42年7月21日第三種郵便物認可

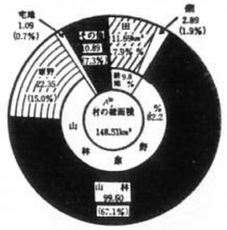

**世帯と人口**

| | |
|---|---|
| 世帯数 | 1.587世帯 |
| 人口 | 7.316人 |
| 男 | 3.614人 |
| 女 | 3.702人 |

前月に比し世帯は1の減
人口は13の減

**財政**

| | |
|---|---|
| 一般会計 | 339,851千円 |
| 特別会計 | 88,684千円 |
| 内訳 国保 | 86,106千円 |
| 内訳 黒診 | 792千円 |
| 内訳 簡水 | 1,400千円 |
| 内訳 玉財 | 386千円 |




# ことしの村政

## 上座談会

あしたに夢が抱ける展望のため、本紙では、村長議会議長、教育委員長、公民館長、東由利農協長、玉米農協長ら六氏のお集まりをねがい、紙上座談会を開いた。座談会ではまず▽生産調整下での本村の農業が語られ、①出かせぎ対策②農協合併③圃場整備④稲作以外の農業収入にまで発展した。▽また教育問題では①中学校統合以後の教育問題として、社会教育の施設。小学校統合。②社会教育問題では青少年教育。出かせぎ家庭への教育が話合われた。▽土木行政では①増大する村道の新設改良②林道の新設改良③未改修県道④大巾に前進した除雪体制など▽住民行政では①水道に着手の年②広域消防③養護老人ホーム④じんあい処理施設など、四十六年度における村政の方向が打ち出された。

【関連記事二面にも】

## 力あわせて強い農協づくり
## 新しい意欲のために

小松村長

**司会（伊東助役）** 去る十一月二十九日、東由利、玉米両農協の全役員に、村長、議会議長、農業委員会長を混え、両農協長を選んで、合併を進める気運にあるが、まず、この問題を話題にしたい。

**阿部公民館長** 両農協とも新しい組合長が就任したばかりであり、この問題を進めるには、格好の時期だ、合併はすべきだとする住民の声が多いが。

**長沢議会議長** 東由利農協の四十五年度総会に、村長と同行したが、組合員の合併に寄せる熱意は、盛んなものであった。双方、家庭の事情はあろうが、実現の早いよう祈りたい。

**畠山玉米農協長** 合併することに異論はない。しかし現在、玉米農協としては、合併推進協議会事務局とは別に、単独で内容を分析中である。

**佐々木東由利農協長** 私のほうは〝合併を前提〟としており、合併推進事務局の協議を基本にして、内部検討を加え進めて行きたい。

**小松村長** 合併はいやだという人は誰もいない。やっぱりやらねばだめだと考えていると思う。なお、事務段階での検討方法は、推進事務局と併行してもよいと思う。

**玉米農協長** 玉米農協としては、数年来この問題では組合員と話合いをもっておらずその意味では、態勢が不備で申訳ない。しかし基本的には現在の農業情勢や経済情勢からみて、規模拡大に異論を唱えるものではない。

**議会議長** 組合員が合併を望んでいる以上、はかどる進め方があると思う。出かせぎの方たちの正月帰省が迫っているし、そのチャンスを捉えて、部落座談会なりを開かなければ、新年度合併は困難になる。

### 時代に目を開こう

**司会** さし迫って農協合併問題が、台頭しなければならない背景、または底流は何かを語ってほしい。

**議会議長** 農協のあり方には、農産物の生産から流通まで、というような、新しい意欲と指導力が必要である。そうしないと、農家が、出かせぎをするしか手段がないという、現状から脱けられない。

**東由利農協長** たしかに農協は、米、購買収入に頼っていたが、もう、そんな時代ではなくなっている。また行政と経済が分離しないで、車の両輪のような一体感で進めなければ、農村のあすは展けなくなっている。もしも農協が現状のままで行くとしたら、組合員の利益はもちろん、働く職員の待遇すら、満足にできかねるのではなかろうか。

**村長** 玉米農協としても、その辺のところは理解していると思う。ただ出足がおそかったために、時間的に足なみがそろわないだけで、将来への見おしでは、何ら変るものではないだろう。いずれにせよ、増産政策の時代に生き残るためには、力を寄せあい強くなって、可能性をひらかなければならない。

### 火の用心

ルートが問題で、作ったがやり場がないというのが障害になっている。もちろん農協が積極的に取組まねばならないが、農協だけに責任を負わせないで、村としても力をいれなければならない。

**東由利農協長** これは二つに別けて考える必要があると思う。一つは企業グループでのかたち。一方は牛乳を集めている方法のように、毎日、市場へトラック輸送をするやり方。個々の農家からは少量だろうが、ぜひ考えなければならない。

**議会議長** そうなると品種をそろえること、市場性を考える必要がでてくるわけだ。また話はちがうが、私のオガクズ山に、長野県からキノコ栽培のため、大型トラックを連れて運びに来るが、あの意気ごみにはおどろいた。

**東由利農協長** 伸び悩んでいるのはなぜかを考えてみた企業的にやって行くには、まだ資本が不足している。当業者の認識を新たにする必要、草地拡大の必要がある。また畜産振興資金という一人二百万円までの融資制度があり、すべての人にあてはまるわけではなかろうが、意欲の人にはこたえられると思う。肥育牛など伸ばせる余地はあるが、現在の指導体制ではむりと思う。

**玉米農協長** 玉米農協管内でも、若令肥育の指定地区を定め段々と拡大して行く考えであった。しかし資金だけで解決できる問題ではなく、意欲にもう一息という面もあり、計画どおりに進まなかった。それでも大型経営の人は軌道に乗りつつあるようだ。

これからは、やってもやらなくとも同じ、という少頭飼育ではなく、一農家一〇頭いどのグループをつくり資金面の相談にも、こたえられるようにしなければと考えているし、同時に農家の意欲を喚起したい。

**議会議長** 農協が畜産と取り組むためには、指導陣に厳（一〇）医でなくとも五医くらいの人を配置してなければならない玉米農協の場合、畜産専門の指導員をおき、ていねいに巡回させているからよいが—これは決して職員を悪くいうのではない。

きかねるのではなかろうか。

**村長** 玉米農協としても、その辺のところは理解していると思う。ただ出足がおそかったために、時間的に足なみがそろわないだけで、将来への見おしでは、何ら変るものではないだろう。いずれにせよ、増産政策の時代に生き残るためには、力を寄せあい強くなって、可能性をひらかなければならない。

## 小学校統合
# 調査会は意見一致
## ほしい社会教育の場

佐藤教育委員長

阿部公民館長

——**司会** ことし四月には、いよいよ中学校の実質統合が実現するわけであるが、それ以後の教育問題として、小学校統合の問題、社会教育施設の問題があるのではないか。

**佐藤教育委員長** 去る十一月六日、十一人で構成する小学校問題研究会が発足、初会合を開いて「小学校の統合問題の方向づけのため、資料の調査や収集、世論の動向調査を進める」という調査会の性格づけや、毎月一回、定例的に研究をすること。つねに次回への問題提起をし、そのことをよく研究して出席するなどを話合っている。

二回目の十二月九日には、前回からの宿題であった、児童減少の推移、適正な規模に組合わせるとしたら、どのようなかたちになるかを話合い、小学校を一校にした場合の、または二校とした場合の位置や条件を、そろえなければならないかという、研究を進めることにしている。

結論はいつになるか、いまだ始まったばかりで見とおしはないが、かたまりしだい、世論に訴えたいと思っている。ただ、どの委員も、統合は進めるべきだという点で、意見が一致している。

**公民館長** 社会教育を進める場合、三つの条件がいると考える。まず社会教育の場であり、適正費用であり、人をうることである。

現在、部落児童館を借りたりして、どうにか行なっているが、会場さがしにはいつも苦労をしている。また四十五年度から、教育委員会事務局に一人増員になったが、他町村の例でも、社教主事が一人また、社教主事増員のことは、他の部門も窮屈しており新年度には不可能だが、将来は考えて行きたい。

——**司会** 青少年健全育成にからみ、出かせぎ家庭への社会教育はどうでしょう。

**教育委員長** 各学校では、例えば一人だけか、または夫婦二人でかなどの、出かせぎ関係調査をしており、家に残った人との〝きずな〟が冷えないような指導をお願いしている。

**村長** かなりの影響が心配される。何か具体的に手を打つ方法を考えたい。

長沢議会議長

## 村道改良は増大
## 除雪は大丈夫

——**司会** ことしの土木行政を語っていただきたい。

**村長** 村道の新設改良は、山村振興計画、過疎地域振興計画、広域市町村圏計画などの制度により、かなり増大できると考えている。また路面の維持管理のために、ハンド・ドーザ一台を設備してやってみたい。また土場沢林道には県は前向きである。由利郡内には県道が三十五路線あるが、これに対する県の改良予算が不足なので村内四路線の未改修県道の改良進捗がおくれている。しかし、なんとかしてがんばらなければならない。除雪は、県から村有ブルドーザの二倍の能力をもつスノーローダー一台を借用。村有ブル三台と併せて、かなりの期待にこたえられる。また県では、降雪量が増せばロータリー除雪車も配置すると言っている。

**東由利農協長** 県からのスノーローダーに村の運転手が乗っていたが、というのは少ないので、青年団体から苦情のマトである。

**村長** 公民館というものではないが、山村開発センターの構想をもっている。国では、一県あたり一館ていどの計画であり、全国的に奪い合いの状態である。四十八～四十九年度に計画している。

**公民館長** 幼児のかいた絵を、就労先の自室にかざり、意欲回復をした人の話などあるが。

**村長** 青少年健全育成地区に、県から指定されているが（四十五、四十六度）二年間で完結する性質のものではなく、むしろ出発点となる。

**議会議長** 後から後から青少年は出てくるのだから（笑い）もちろん続けなければならないと思う。

## 作ったらやり場
## 稲作以外にも力が

佐々木組合長

畠山組合長

**議会議長** 従来、県からの配置ブルの運転手は、本荘からの通勤であり、承知のように役に立たなかった。そこで効率のよい運転のために、村の運転手を乗せている。なおハンド・ドーザは法内道路あたりで力を発揮しそうだ。

**議会議長** みんなが考えていることだと思う。ただ流通業収入にも、一段と力を入れる必要があると思うが。

## 元日は家庭で
## 四日にレク大会

木村公民館蔵分館では〝みんなで明るく楽しいお正月〟を過すために、というテーマで集会を開き、新年から元日だけは、家族だけの楽しい正月にしようと、よそに出あるかない運動を繰り広げることにした。またそれらの一環として、正月四日には蔵地区レクレーション大会を、蔵小学校で開き、家族が総出で楽しめる種目をとりあげ、部落対抗ゲームを行なうことにした。競技種目は、家庭バレーボール、卓球、ドッヂボール、バドミントン。気軽に多勢の参加を主催側では望んでいる

東由利村報

昭和42年7月21日第3種郵便物認可　　昭和46年1月1日　　第161号

# 新しい年の夢を語ろう　議員の寄稿

繁栄の70年代に突入する前に苦悩する70年代が始まっている。その代表格は米の問題であり短時日で解決がむずかしいと言われている。しかし考えようでは、苦しいからこそ夢を描くのでありその手だてはあると信じる。それらの夢を議員各位に語ってもらった（抽せん順）

## ほ場整備が急務　迷うときでない

**司会**　稲作農業の急務は圃場整備にあると言われている。ことしはどれくらいの事業が行なわれるか。

**村長**　四十六年度村内で補助事業として行なわれる土地改良事業は七八㌶である。そのうち、へき地県単事業（県補助四割、村補助一割、残額の八割を長期融資で行なう制度）で二六・五㌶。総合県単事業（県補助二割、村補助一割、残額の八割を長期融資で行なう制度）で二七・五㌶。山村振興計画の特別開発事業（国が五割補助、県が二割補助、補助残額の八割が長期融資で行なう制度）により二五㌶である。

**東由利農協長**　農協が取まとめ中の融資単独事業で行なう人もかなりの数に上っている。知事も、四十五年度の二倍の面積に補助を出す。こう言ってるように、原価の安い米をつくるためには能率のあがる田んぼに整えることが先決だし、米づくり農業が生き残る道であると思う。それにしても、地区によっては熱意がないところもあり、残念に思えてならない。

**議会議長**　この苦しいときに借金してやっても、耕地整理した田を売らねば、と思いちがいしている農家があるからだろう。

## 水道いよいよ発足　機動力の広域消防

**司会**　住民行政として、水道、広域消防、老人ホームじんあい処理などがあるが。

**村長**　簡易水道事業はことしから発足させる。

広域消防であるが、本荘、由利郡内で現在実施しているのは、鳥海―矢島―由利の一ブロック、象潟―金浦―仁賀保のブロックだけである。とりあえず本荘を中核とした、西目、東由利、岩城、大内の五市町村で発足させ、将来は本荘、由利郡の各圏域を一本化する方向である。

広域消防が必要だとする背景には①出かせぎによる消防体制の低下②生活文化の向上にともない、火災原因が多様化してきており、化学消防の必要性が増している③常備消防による機動性が要求されてきたが、最近の日常生活から排出される、質、量は、自家処理ができ難くなっている。しかしこれを広域圏で行なう場合には、収集距離によって負担金が異なるもようであり、研究の余地があるように考えている。

**議会議長**　負担金がプール計算でないとしたら、本荘まで運ぶ必要はなく、独自で考えたほうが経済的だと思うが。

## 就労先で実収を

**司会**　生産調整のもとで出かせぎが増える傾向にあるその対策にキメ手は至難だが手をこまねいてばかりいられない。

**村長**　十一月十五日現在、本村からの出かせぎ者数は七一四人、うち三八九人が、秋田県出かせぎ互助会加入者である。昨シーズンのピーク時には八七八人であったから、約千人に近い方々が就労するものと思われる。ことしは就労先へ出かけて行き、現状を見てまわり、出かせぎ対策の方向を見出したい。

**公民館長**　他町村の場合、会社がバスで送迎があると聞いている。そのためには、集団就労が望ましいが、本村からの方たちは職場を転々と変わり村の心づくしの新聞も、ろくろくとどかない。

**議会議長**　ことに土建関係への方たちが、目先きに動かされやすい。結局、よいリーダーがいるグループは、よい出かせぎをしているようだ。

**東由利農協長**　集団就労を進める対策は必要と思う。縁故就労などで経営不振な会社にあたった人が職場を変えやすい。また賃金相場をこえる高額条件で誘う会社はいちおうインチキ会社と疑って警戒する必要があるように思う。

**たばこは村内で**

養護老人ホームは、広域行政圏が発足する以前に、広域行業務として行なっているが、一〇〇人の収容能力に対し、まだまだ余裕があるという現況である。

本村でも、しばしば問題になっている、ゴミ処理である。本荘まで運ぶ必要はなく、独自で考えたほうが経済的だと思うが。

## 町制施行の時期

小松　豊

七一年も私たち農村には大きな激動の中に明けました。ことに米の生産過剰による減反減産をめぐり、所得の減収を、農外収入に頼らなければならなくなり、工場誘致そしてそこで働らかなければならないことを余儀なくされ、日増しに、農業と工業が共存しなければならないことを、生活の中で自覚してまいりました。

それは申すまでもなく、農村が変らなければならないことを意味しているのです。ここ一、二年の間に、私たちの村も近代的な統合中学校ができ、老方バイパス道路ができ工場もつぎつぎと誘致され、何か村も変ってきたという感じは、皆さんも同感でしょう私はいま、農村行政の一環の中で、民心の指導方向を、激動する社会に対処する心構えへの転機のために、農工一体の理念を深めるためにも、町制施行の時期であると思う

## 水道に全力

田代寿治

新年おめでとうございます。ボツメキ、小ボツメキのすばらしい湧水で、水道実現にがんばります。水道ができれば、水泳プールもできます。川の汚染で、楽しい水遊びの場所を失った子どもたちに、健康に育ってもらうためには、水泳プールをぜひつくってやらなければならない。小学校は統合の方向をさしておりますまた道路の除雪は完全に行きとどかなければなりません。誘致工場と土地改良にも一生懸命がんばります。相かわらずドンドン使ってください。

## 村民と共に考える

嶽石伊佐武郎

七一年の新春を迎え村民皆さまのご多幸お祈りします。

われわれには、実にきびしい一割減反の生産調整の年は暮れ、本年はさらに三〇〇万㌶の生産調整を政府では考えていると伝えられる。政府の高度経済成長政策の反面、公共料金はじめ諸物価が上昇するなかで、米価だけが二年もすえ置かれるなどにより、人口流出、出かせぎ者が増加するなど、農村経済にも一段ときびしさを増している。そんな中で村では、中学校三期工事、過疎振興対策、山村振興計画、広域市町村圏の設定、学校統廃合などが山積している。圃場整備の近代化にともない圃場整備を進め、ダブルセブン運動（七百俵の米を七〇時間の労力でという運動）も必要である。われわれは常に、机上の計画よりも村に即した施策を村民と共に考え前進したいつもりです。

## 村民福祉の向上に

小松与惣雄

新年おめでとうございます。農村を襲った米の生産調整により、農民は、今後の農政に不安感をもってきた。ことしの生産調整は、昨年よりもきびしいものと考えられます。そこで村としては、農民の納得できる、村の総合的な農政を策定しなければならない。まず共同育苗施設により品種の統一をはかり、うまい米づくりに村民一丸となって出発したい。つぎに、全くの休耕をなくし、転作を奨励し少しでも農家の収入の増大をはかりたい。また畜産の振興は、なかなか計画どおりに進まないが、その障害は何かを、専門家の来村をえて、本村の畜産診断をしてもらいたい。村民皆さまのご協力を願い、ご多幸をお祈りします。

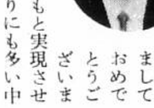
## 新時代のために

小野昭一

情報化時代・変化の時代ともいう七〇年代、農村は経済成長の〝ゆがみ〟の中にあって、多くの問題をかかえている。この年代の後半、人口の移動はさらに激化するであろう。従って集落の再編成、教育文化施設の充実、交通通信網の完備など都市的機能を有する新しい村に造り変えて行かなければならない。当面は過疎および振興山村計画を完全に実施することです。とりわけ道路整備は、主要村道の舗装県道法内線、林道土場沢線の改良開設など、さらに強く当局に働きかけなければならない。経済基盤確立のためには圃場整備の促進、畜産の振興入り合い林野の近代化、農協の合併、企業の育成強化あるいは誘致など、徹底的な生産体系の再編成が必要であることを痛感するものです。

## 辺地からの脱出へ

長谷山喜市郎



明けましておめでとうございます。あれもこれもと実現させたい夢の、あまりにも多い中から、これまで宿命と半ばあきらめていた辺地生活と、冬期の不安定な生活を、一歩前進させ安定した日が々送れるよう、具体的には広域行政圏の発足による事業の実施にあたり、本荘市と他町村との一体的な発展を図ると同時に、多年の念願であった簡易水道事業の促進と、生活改善センターの建設、小学校の統合問題と町制施行の具体的な調査研究。なお冬期交通の確保と除雪対策、宿命的な不用地の一助として、急病患者の輸送と、緊急連絡用のため雪上車設備にがんばりたい。

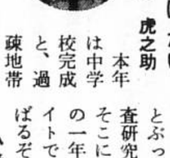
## 農民よ萎縮するな

高橋俊一

皆さま新年おめでとうございます。一九七〇年代は大変複雑な時代のように思われるが、それに私どもは心ならずも、文化の波に押しまくられ環境を忘れかけているのが現状です。過密過疎がさけばれ、生産過剰、労力不足、農薬公害と、つぎつぎに高波が押し寄せて来ます。それがあたかも農民が穴を堀り、自分で穴に入りかけているような錯覚にとらわれているから淋しい。私はここに記したい。澄んだ空気、豊かな緑、高瀬の清流公害のない農村は、われわれに与えられた最高の武器である。この特有な環境を存分に生かして、ゆたかにはばたき堂々とかっ歩しようではないか。

## 住みよい村のため全力を捧げたい

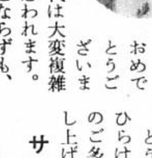
藤原虎之助



本年は中学校完成と、過疎地帯本村に課せられた山振事業初年の年である。本年度の実施計画は簡易水道事業、プール設置、村営運動場、その他重要事業の完成めざし村民と共に住みよい村のため全力を捧げたい。②小学校統合調査会

## 若い担い手に託す

長谷山千代蔵



七〇年代の二年次を迎えまことに複雑かつ予測しがたい多くの問題を抱えることになりそうである。まず当面するものは農業に関する課題である。農業の発展のためにいかなる決意と、努力が必要とされるかが、発展につながる要素であろう。農政は、農民をして当分支配的重圧感に耐えざるを得ないものである。従って自ら営農ビジョンを求め、積極的実践行動に最善の努力を傾注することを、痛切に思われる。私は玉米農協だより（12月1日付）の梶木農博の特別寄稿「これからの農村」を読み感銘を深くし、本村の未来をになう若い人々に、是非再読をすすめ、本村将来のため多くの農業のにない手を求めたいと念じるしだいである。

## 生産性の高い圃場整備の促進

小野作右工門

わが村の村政も多事多難の今日ことしも米の減産減反の二年目をむかえ、国は生産調整の目標を二五〇～三〇〇万㌶とする心構え、今後いかなる農政の転換に直面しても、わが村の米作が、絶体的基幹作目に変りはない。そこで村の農政は、八〇㌫の未整理田地の圃場整備事業が急務である。また、今年度から実施予定の山村振興、広域行政圏、過疎対策の諸計画事業の推進。とくに圃場整備、広域消防の新設、小学校の段階的統合問題は「複式、複々式の解消」などが今年の課題である。

議会自からの姿勢を正すと共に、前向きの村政に努力したいと思いますので、皆さまのご協力お願い申し上げます

## 農協合併に奮起を

遠藤兵一

昨年はいろいろと出来事の多い年でありました。米の過剰による生産調整、それとはうらはらに、天候に恵まれて大豊作農業をとりまく諸情勢はきびしいものがあります。そのきびしさも、過疎と言われるところほど、強く感じられます。四十六年への夢は可能性のあるものでありたい。長い間の課題である農協の合併もその一つでありましょう。激動する農政に対処するためには、おそきに失する感がありますが、理事者の奮起と組合員の相互理解をのぞみたいものです。また静かな話題となったほうが経済的だと思うが。

## 私の初夢

遠藤正男

「百川の清濁合し大河成り、村政の途も厳気農年成り」年々苦しくなる農業の問題、食管は生産者のためのものでもあり、消費者のためのものでもある。両者が一体となって堅持して今後の農業と食糧を確保したい。

過疎化と出かせぎ防止のためにも、国県による公共事業の増進をはかりたい。川にはきれいな水をふんだんに流すなど、多目的ダムの建設で、水資源の確保とあわせ、村の発展の途としたい。

どうにかして、村の産業がひらけ行くよう、村民皆さまのご多幸とあわせ、お祈り申し上げます。

## サアこの一年も

長谷山二郎

▼農協合併統合中学、水道、山村振興がいよいよスタートする年。

▼村民が一堂に集える公民館（山振センター）は四十七年着工をめざし、徹底した調査研究の年としたい。

▼村をどうするか、村民の役割りは何か。住民パワーの結集のためにも、基本構想はぜひたてなければならない。

▼議員になって三回目の元旦問題を円満に解決することへの傾斜していなかったかと反省している。

前進のために、問題に体ごとぶっつかり、さらけ出し調査研究する。今年の基本線をそこに定める。未来に続くこの一年だ。若さと正義とファイトで、サアこの一年もがんばるぞ。

## 小学統合は円満に

梅津二三雄

ことしも農村に、きびしい嵐が